

やる気満々の新任, はなまる校長・・・ 学校ビジョンをどのように共有させるか？ 基準1 「学校の共有ビジョンの形成と具現化」

九州未来高校は、実業女学校が前身として創設された公立の全日制普通科高校で、今年創立100周年を迎える伝統校であり、各界で活躍する同窓生も数多く輩出している。1学年6クラス、全校生徒700名程で、男女の比率は4対6で女子生徒が多い。生徒は素直で明るく、いくらでも伸びる可能性をもった生徒が入学してくる。しかし、少子化や地域の過疎化、また最近では地元の私立高校の躍進等の影響もあり、ここ2～3年は定員ギリギリの受験生(中学生)しか確保できていない。その結果、基礎学力が低い生徒が増える傾向にあり、過去3年間の進路実績は、大学・短大進学が約3割(ほとんどが推薦入試受験で国公立は年2～3名程度の合格)、専門学校進学(看護・医療系10名程度を含む)が最も多く約5割、就職(公務員2～3名を含む)が約2割で、生徒の力を十分に伸ばすことができていないのが現状である。

この高校に新任の華丸校長が着任した。この校長は、昨年まで地区一の進学校で進路実績を上げる取組の中心となって実行してきた人物である。そこで培った自信とこの学校の最近の進路実績の低迷を課題と感じて、この学校のビジョンを「進路実績の向上：進路実現を目指す生徒の育成」と掲げ、数値目標として大学・短大進学100名(約5割)、公務員20名(約1割)とした。校長は年度当初の校務運営委員会(※管理職と教務・生徒・進路・学年・保健・研修・企画の各主任主事で構成)で提案し、それぞれの分掌において実現のための方策を検討するように依頼した。校務運営委員会では、特に進路指導主事と3学年主任から「いきなりそのような数値目標を言われてもこれまでの2年間、そのような計画のもとで進んでいないので実現は困難であることが明白である」と強い抗議があった。他の主任主事はほとんど意見を言わないが、全体的には難色を示しているようである。主任主事は本校5年以上・50代のベテランが多く、「昨年通り」の仕事の仕方に慣れていて「改革」を好まない傾向にある。若手の職員には意欲がある者もいるが、講師も多く、自分の意見を示す場も少なく学校全体の力にはなっていない。教頭は3年目で、そのような学校の実態を課題とは思っていたが、改善については、かなり困難であると感じていた。しかし、校長の思いが強いので進路指導主事と3学年主任を呼び学校ビジョンに対するその思いを説明したが、二人はなかなか納得しない。

- 問1 校長は、進路指導主事・3学年主任、また校務運営委員に対してどのような対応をしたらよいのでしょうか？
- 問2 校長は、職員全体に対してどのように学校ビジョンを共有させたらよいのでしょうか？具体的な取組例をあげて説明してください。
- 問3 このケースの校長としての問題点はどのようなことですか？



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

「授業の神聖化を崩す！学校の根幹、授業の質を高めていくには？」 基準2「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」

九州太郎校長は、福岡創造高校に赴任した。校内を見回ると出会う生徒は明るく、挨拶も良くする。生徒指導も一定の規律が保たれている印象を受けた。しかし、授業中での生徒の姿を見て愕然とした。それは、授業がとても成立しているとは思えない光景が見られたからである。授業中にもかかわらず、「他教科の内職」「居眠り」「私語」「携帯電話でメール」そのことに担当教員は気づかない。気づいても注意をしない。また、「教員の声が小さく何を言っているかわからない」「ひたすらプリントを配布し、理解度を確認せず一方的に進める授業」全員の教員ではないが、特に**教師経験年数が長い者**に多く見られた。

生徒、保護者からは授業改善の要望が常に出ており、教頭からの指導も行われている。授業アンケートも実施している。全てではないが、授業担当者を学期によって交代する等の方策も取られているが、フォローする教員の負担が増え、不満感、疲労感が漂っていた。現場でやれることは、既にやっているように思えた。

そこで、九州太郎校長は「授業こそが学校の根幹であり、生徒がわかる授業を」というビジョンを打ち出したい。「今までのやり方にとらわれるのではなく、授業を進化させて欲しい」「入試傾向の変化は激しく、時代に即した教授法を先生方に身につけて欲しい」と考えた。

まずは、問題のある教師に対して注意を促したが、「わからない生徒が悪い」「このような指導は心外である」の一点張りである。

それならばと、教務主任等と協議し、「内部で駄目ならば、外からの風を」と考えた。「大手予備校の講師を呼び、授業改善の方策を見いだす」というものであった。教務主任等も校長の意見に賛同し、職員会議で提案をした。しかし、会議では「指導力のない教師側」からではなく、逆に「意欲的に行っている教師側」から猛反発が出た。「研究授業も行っており、なぜ外部の予備校なのか」「センターの研修も受講し、さらに実施する必要があるのか」「授業は大学入試のためなのか」とあった。このままでは、逆に意欲を削ぐ結果となり、「授業の神聖化を崩し、新しい教授法を教師が身につけ、スキルアップを目指す」という考えが通りそうもない。

さて、この九州太郎校長が進めた「外部からの風」の問題点は？あなたが校長であったら「予備校講師による授業改善」について、どのように進めていきますか？



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

小さな事から、大きな事まで 基準2「教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」

二瀬農中学校は、学校全体としては落ち着いているように見える。しかし最近、海山校長にはとても気になることがある。気になることとは、第一学年の学年団（副担任等も含め10人）である。その学年のあるクラスには、授業中気になったことを突然口に出したり質問したりする男子生徒、賢次がいる。賢次は小柄でややぼっちゃりしていて、目つきが少し鋭い。賢次の保護者は、父は会社勤め、母は専業主婦の一般的な家庭である。賢次の担任伊刈は教職経験年数20年、二瀬農中学校在任4年目である。担当教科は数学で、第一学年団でも中心的役割を果たしている。物事を包み隠さずはっきり口にするタイプであり、生徒会担当の校務分掌を担う等、リーダータイプの子どもの指導で力を発揮している。あるとき、賢次の母親が直接学校にやってきた。訪ねてきた母親に対応した伊刈教諭は、賢次がクラスでからかいを受けるなど、嫌な思いをしていることを知った。

そこで伊刈は、クラスの生徒達にヒアリングした賢次自身の問題や直してほしいことを聞いて回った。そこで挙げたクラスメートの意見をまとめた上で、直接賢次に伝え、改善するよう指導をした。賢次は担任伊刈の対応にショックこそ受けたものの、負けず嫌いの賢次はそれでもクラスで学校生活を続けている。その後の学年会議では、賢次の対応の話が出たが、第一学年団の教員のほとんどが、賢次の状態や伊刈の指導に関して特に問題視することはなかった。伊刈教諭に対して「賢次が直さなきゃいけない所があるよね」・「大変ですね伊刈先生も」といった発言が出たくらいである。普段から仲の良い第一学年団であるため、会議そのものは和気あいあいと進んだ。

この母親の訪問と学年会議の話を受け、思う所のあった海山校長は、賢次に関する情報を集め始めた。理科教員の話では、休み時間に数名の男子生徒からちょっかいを出されている賢次を見たことがあるとのことである。そのときはグループ内でふざけ合っているようにしか見えなかったとのことだ。社会科の教員は、「賢次は授業中よく気づきを発言してくれて、授業の雰囲気活発になってますよ」と話す。一方、英語科の教員は、「たまに賢次が『なんでそうなるの？納得いかーん！』なんて言い出して、授業がストップしちゃうんですね」と話していた。

賢次の普段の学校生活について調べているうちに、昼休みに時折、保健室に話をしに行っていることがわかった。養護教諭が話してみた賢次の印象は、夢中になっていることは楽しそうに話す子ということだった。特に歴史に興味を持っており、知っている事を楽しそうに話すそうである。そこで養護教諭に、同じクラスの生徒にそれとなく賢次に関する話を聞いてもらった。ある女子生徒達は、「あいつ（賢次）、ついてくるよね、なんか」、「そう、やめてほしいよね。この前男子達が『お前（賢次）、女好きなんじゃないの？』って言ったら、賢次はめっちゃ怒ってた」と笑って話していたそうである。

「賢次への対応、このままでいいのだろうか」と、海山校長は自問する。そんな折、再び賢次の母親がやって来た。校長室に通されるなり、「担任をかえてください」と訴えた。

問1：なぜ第一学年団の教員たちのほとんどが、賢次の状態や伊刈教諭の指導に関して意見が出なかったと考えられるのでしょうか。

問2：もし校長Aの立場なら、第一学年団をどうやって変えていけばいいのでしょうか。

問3：あるクラスの一人の子どもの関わる問題を、学校全体の問題として共有するにはどうしたらいいのでしょうか。



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

校内研究への教職員の意欲と協力体制をどのように立て直すか 基準3「教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」

A小学校は、市内でも国語科の研究校としてこれまで研究発表会を開催してきた。その中で、力量のある研究担当者を中心に若手も順調に育ってきたが、ここ数年、教職員の大量退職・大量採用の過渡期に入り、また市教育委員会の人事異動の方針変更もあり、A校も、国語科の実績のある教職員の転入は年々少なく、若手教員が増えてきている。

T校長は、52才で、今年度4月に赴任したばかりである。専門は、体育であるが、来年度の研究発表会をめざして校内研究の進化・充実を学校経営方針に掲げている。研究テーマは昨年度から継続して2年目であり、各学年3学級の全18学級で、6人の推進委員、専科の研究担当で研究推進委員会を組織している。推進委員のうち1人が今年度の転任者で、あとの5人は昨年度の経験者、研究担当者は2年目で、前回の研究発表会の経験はない。

4月25日、第1回目の研究推進委員会を開いた。その席上、3年の推進委員が困ったような顔で、「新採のE先生が学年会で打ち合わせた通りにせず、勝手にしているみたいです。」と報告した。すると、4年の推進委員も「今年来られたI先生のクラスも自分のやり方でしているみたいで、学年で作ったプリントは使っていないんじゃないかな。」と言う。研究担当者は、「昨年度の実践で使った資料をもとに学年で共通理解して実践するのが当たり前なのに・・・」とあきれ顔だ。T校長は初耳であり、教頭、教務主任に尋ねたが、よく分からないと言う。そこで、校長は、研究担当者、教務主任、教頭に、連休明けの1週間、2人の先生の授業の様子を観察するように指示をした。

5月12日、3人から報告を聞いた。「国語の時間ではなかったのですが、子どもとは普通に進めている感じでした。」「今の時期を考えると、学習規律はきちんと指導していると思います。」「今日はプリントを使っていましたが、子どもへの説明や指示が分かっていないようでした。」などと言う。T校長は、新年度スタートからまだ1ヶ月余りで、もう少し様子を見ようと考えた。

数日後の全体会の当日。今年度のテーマの考え方、研究組織、年間計画、研究授業（全研・学年研）の単元と時期、研究協議会の進め方などについて、研究担当者の説明にとくに質問・意見は出されず、表面上はスムーズに進んだ。最後に、T校長は、学校経営方針に掲げた校内研究の進化・充実をもう一度話し、学年の推進委員を中心とした全校の協力体制が重要であることを付け加えた。

運動会が終わって、1週間後の6月8日、第2回目の研究推進委員会を開いた。3年と4年の推進委員にその後の報告を求めると、「新採のE先生は、自分の学級だけ早く終わっているんですよ。本当にあきれれるんだから。」と言う。また、4年からも「I先生も昨日の学年会の時、子どもが楽しいんだからそれぞれのやり方でしていいはずじゃないですかと言うんです。私は年下だから言いにくくて。校長先生、何とかしてください。」と困り果てている。すると、5年の推進員から、「うちのS先生もね、研究発表会をするから研究するというのは私は反対って、こっそり言ったんですよ。」と俯いた。研究担当者もむっつりと黙り込んだまま、その場の空気が重たくなってしまった。運動会が成功裡に終了し、1学期後半の本格的な研究実践を目前にして校内研究はどうなっていくのだろうか、T校長は初めて不安を感じた。

このような事態が起きた原因をどのように分析しますか。このような事態を前もって少しでも回避するとしたら、校長としてどんな手だてが可能だったでしょうか。こうした事態を打開するために、あなたはこれから校長としてどんな戦略、手だてをとりますか。



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

児童理解のための情報共有はどうあるべきか 基準4「諸資源の効果的な活用と危機管理」

B教諭はA小学校2年目、昨年度は2年生で今年は6年3組の担任となった。校内人事がなかなか決まらず、4月に入っても会議続きで学年会や学級事務の時間がほとんどなく、あわただしく始業式を迎えた。新クラスの子どもたちとの対面を無事に終え、初めて学年のメンバー4人で食事に出た。そこで、昨年度は5年担任だった学年主任の男の先生から、3組のN児はカッとなって暴力をふるったり物を壊したりすることから低学年のころから周りの子とのトラブルが続いていたということを知り、「N児は、去年は自分が持っていたが、ほとんど学校に来ていない。女の先生の母性で変えてもらいたい」と言われた。低学年児童についてしかよく知らなかったB教諭は、初めて聞いたN児のことや今後のことに不安を覚えた。

学校に戻ると、新しく担任したK児の母親から「昨年、個人面談の時に、N児と一緒にクラスにしないことを前担任にお願いしていたのに、なぜ一緒にクラスなのか。うちの子は明日から学校に行かせない」という電話があったと知らされた。驚いたB教諭が、今年は2年生担任であるK児の前担任に尋ねたところ、「あ、確かにそうだった。忘れていた。」と申し訳なきように答えた。記録によると、K児の母親は、K児が2年生の時、一緒にクラスだったN児のことでよく電話をかけてきていたそうであるが、トラブルの内容については、当時の担任がみんな異動しており、学年主任も詳しくはわからなかった。

B教諭の相談を聞いた教頭の指示を受け、K児の前担任が保護者にお詫びの電話をした。しかし、地域でもN児や少しも悪いと思わないN児の保護者の態度に対して反感が強く、クラス替えは同級生の保護者間で話題になっており「うちはわざわざお願いしたのに、なぜ聞いてくれないのか」という返事だった。午後から管理職と学年主任は会議のため、B教諭は一人でK児の家に行ったが、その時も、母親は「クラス替えをやり直すか、N児を絶対に近づけないということを文書で出すまで、学校にやらない」と繰り返した。

B教諭は、放課後、N児が2年生の時の担任にようやく連絡がとれた。ADHD児の傾向が見られたが検査日当日に保護者が来ず、結局そのままになったことや、「殺してやる」と叫びながら友達の家に向かい包丁をもって押しかけたことがあることを聞いた。

校長としてK児の母親の要求に対してどのように対応しますか。
この学校の児童の情報共有の問題点は何でしょうか。改善するにはどうしたらよいでしょうか。
今後、N児とその保護者にどのような対応が必要でしょうか。



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

梅ヶ枝高校サッカー一部体罰顧問！？ 基準4「諸資源の効果的な活用と危機管理」

県立梅ヶ枝高校サッカー一部は過去10年間でインターハイに7回出場するほどの強豪校である。サッカー部を率いるのが菅原教諭であり、その指導者としての名声は全国的にも高く、学区内に転居してでも同校に通いたいという生徒も多数いるほどである。また、菅原教諭は生徒指導についても優れた能力を発揮しており、県内有数の荒れた学校であった梅ヶ枝高校を立て直し、現在のように規律ある校風を保っている立役者でもある。その実績からか、原則として5～7年で別の学校に異動させる県の方針に反して、菅原教諭は20数年間にわたり同校に勤務し続けている。

校長であるあなたも菅原教諭を高く評価しており、また、まわりの教職員や生徒たちも、菅原教諭を「情熱を持って指導する熱い先生」として一目置いており、梅ヶ枝高校にとって無くてはならない存在であるといえる。

そんなある日、サッカー部の保護者数名が連れ立って校長室を訪れた。話を聞いていると、二つのグループで対立しているようだ。

「校長先生！菅原先生がひどい体罰を行っていることは校内でも有名な話ですし、特にサッカー部では目に余るものがあります。いくら有名監督だからって、いつまで放置するつもりですか。大きな問題が起きてからでは取り返しがつかないですよ。直ちに改善されなければ、マスコミにこのことを報じてもらいますよ。」

と、一方のグループの保護者があなたに食ってかかると、

「もうじき県大会が始まるというこの時期に、どうしてそんな話を持ち出すんですか？私たちの息子はレギュラーとして必死に菅原先生のご指導を仰いでいます。補欠のお子さん方のやっかみで、大事な大会を台無しにしないでください。」

と、もう一方のグループの保護者が応酬し、お互い一歩も引かない。

確かに、あなたも菅原教諭が体罰を行っていることを問題視しており、折に触れて注意を促してきたところだ。しかし、当の菅原教諭は全くその自覚が無いばかりか、

「強い部にするためにはそれなりの指導は必要です。私のやり方が気に入らないというなら、クビにでも何でもしてください。」

と、開き直る始末である。

本校にとって大切な存在である菅原先生とその先生がおこす体罰問題、そして、そのことが原因で対立する保護者グループに対して、あなたはどのような手を打ちますか？



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

修学旅行先での新型インフルエンザの対応について 「校外活動での危機管理」

基準4 「諸資源の効果的な活用と危機管理」

A中学校は、毎年11月に大阪・京都・奈良へ2泊3日の修学旅行を実施している。2年生は全7クラス生徒数270名である。引率教師は校長・養護教諭を含む13名である。

修学旅行の1週間前、A中学校では新型インフルエンザの罹患者が数名出た。同市内のB中学校は、修学旅行を延期する判断をした。B中は、2年生3クラス102名の中学校である。A中学校は、代替えホテルの手配と日程が難しいと判断し、実施を決定した。

出発前日、事前指導をおこなった。事前指導の内容は、持ち物・服装検査で、2年生担当教師がおこない、明日の日程を伝え生徒を帰宅させた。生徒数名が、欠席したが電話連絡で明日の連絡を担当が伝えた。

出発当日、全員参加で修学旅行に出発した。1日目は大阪城と海遊館見学であった。昨日欠席した2年3組大倉信吾が「頭がいたい。」というので、常備薬を飲ませた。生徒がどうしても参加したいというので、養護教諭と見学した。大倉は、見学後バスで京都の宿舎に向かった。食欲もあり、みんなと一緒に夕食をたべた。入浴後、消灯を過ぎ午後11時30分頃、大倉の班の班長安田が大倉の体調が悪いと連れてきた。養護教諭と別室で就寝後、午前3時頃、熱が39度になったので急患センターに受診することにした。急患センター受信後、新型インフルエンザ陽性の判定が出た。宿舎に帰り別室に隔離した。その後、大倉と同室の生徒3名が、頭痛を訴えたので熱を測ると38度であった。この3名も、急患センターを受診した。インフルエンザの判定は、まだ熱が出たばかりということで、検査しても判定は出ないであろうという事であった。3名をホテルに連れて帰り、大倉とは別室に入れ寝せた。

2日目の朝、別のクラスの女子数名が気分が悪いと訴えた。今日は、タクシーによる班別自主研修である。生徒達は、とても楽しみにしている。大倉は、相変わらず熱が下がらないので、両親に迎えに来てほしいと連絡を入れた。しかし、仕事が休めないし新幹線の運賃がないので引率教師が連れて帰ってきてほしいと言われた。昨夜から具合の悪い3名は、熱は37度台になっていたが、今日の朝もう一度受診し、新型インフルエンザの判定を受けなければならない。

設問1 修学旅行の担当責任者（学年主任）として、修学旅行前にどのような手立てをとったらよかったですか。

設問2 2年3組大倉信吾の親の要望にどのように対応しますか。

設問3 あなたが校長であれば、この修学旅行を続行しますか。中止しますか。どちらの判断の場合も、判断後の対応についてどのように指示しますか。誰にどのように指示し、どのような対応をとるか対策を教えてください。



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

「いじめ」対応 基準4 「諸資源の効果的な活用と危機管理」

Z小学校6年生(2学級)の事例である。小学6年生(1組)のA子は、教師からみると明るく社交的な児童である。しかし、児童同士の間では、自己中心的でわがままなところがあるため、友達関係をうまく構築できず、些細な出来事でトラブルになることが多かった。

3学期のある日、A子は、友達に「悪口を言われた」「無視された」と学級担任に訴えた。すぐにA子の担任は当該児童を呼んで事実確認した。すると、2学期から行動を共にすることが多かったB子とC子(2人とも2組)がA子を見無視していたことがわかった。A子の担任は、2組の学級担任にそのことを伝えた。しかし、2組の学級担任は、A子の担任に任せきりで、事の重要性を捉えていなかった。そのため、A子の担任は、一人でB子とC子を指導した。A子の担任は、A子の立場にたって指導したため、B子とC子は納得していない様子であったが、「これからは仲良くするように」と言い聞かせて、その日の指導を終えた。しばらくは、トラブルは解消したかに思われていた。

しかし、後からわかった事実であるが、B子とC子が数回に渡ってA子の誹謗・中傷・悪口を書いたメールをお互いに交換していたり、校区の公園のトイレの壁にも同様のことを書いていたりしていた。さらにB子とC子は、A子の机の引き出しにカッターの刃を入れたこともあった。これは、「以前はA子から命令されて、他の児童にいじめを強要されていて、A子だけが被害者ではない」というB子やC子の気持ちが根底にあった。

ある日の朝、登校後間もなくA子は学校のトイレに閉じこもって出てこなくなった。「教室なんか行かない」「もう私どうしていいかわからない」と訴えた。学級担任をはじめ、養護教諭、管理職が出てくるように促すが、午前中いっぱいトイレに閉じこもったままであった。保護者に連絡を取り、その日は家に連れて帰ってもらうということで、A子はトイレから出てきた。学級担任は前段落の事実(後からわかった事実)をまだこの時点では知らないで、B子とC子から悪口を言われたり、無視されたりしていたので指導をした旨を保護者に伝えてA子を保護者に引き渡した。

その日の放課後、A子の母親から学校に対して「子どもがメールで悪口を書かれたので学校に行きたくないと泣いているが、どういうことなのか」「いじめがあったのに学校は放っておくのか」「このままでは心配で学校に子どもを行かせることができないので、場合によっては法的手段に訴える」と感情顕わに怒りをぶつける連絡があった。

その後、学校側はその対応に苦慮することになった。

設問1 あなたが校長ならば6年学級担任2人にどのような指導をしますか？

設問2 実際に、該当児童とその保護者を交えて話し合い(参加者:該当児童及び保護者、校長、教頭、教務主任、6年担任)をしました。児童同士、保護者同士ともに納得せず、話し合いは物別れに終わりました。次の話し合いで調停を成立させるための学校の対応について考えてください。



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

「暴力行為・大けが」 基準4 「諸資源の効果的な活用と危機管理」

I 中学校では、教職員が授業妨害や暴力行為等の問題行動を繰り返す2年生の1部の生徒への対応に多忙を極めている。中学校入学前から、問題のある学年で、小学校の6学年担任から、「友だち関係がうまくいっていない」「教員の話は聞かない」など、問題行動を起こす生徒が多い学年であることを聞いていた。入学後も、課題を抱える数名の生徒を中心に、1年生の3学期末には、複数のクラスで授業妨害やエスケープ、教職員に対する暴言等がエスカレートし、2学年教職員は危機を感じていた。そこで、2学年教職員は、休み時間も教室や廊下に留まり、校内の見回りをし始めたところである。

2年1組のA男は、学級内での人間関係のトラブルもあり、次第に遅刻や欠席が増え、1年生の3学期ぐらいから、ほとんど登校しなくなっていた。しかし、2組のB男が学年で1番のボスであることを聞き、B男の様子をみようとして、最近では、登校することが増えてきていた。その度に、B男とは、些細なトラブルが多々あった。

ある日の昼休み、普段から、ことあるごとに対立していた2年生のA男とB男が、どちらが強いか決着をつけるために、それぞれ数名ずつを従え、体育館の裏で決闘に及んだ。そばにいた生徒は手出しはしないという約束で見守っていた。A男がB男の左眼のあたりを殴った。B男は倒れた。そして、眼を押さえてうずくまり、動かなくなってしまった。そばにいた生徒は、倒れたB男の姿を見て驚き、慌てて職員室に知らせにきた。病院に搬送されたB男は、A男に強く殴られたため、網膜剥離を起こし、失明に近い大けがをした。B男は入院、そして手術をしなければならぬという。B男の両親が、A男を訴えると言い出した。

設問1 校長として、初期対応の段階では、どのような対応をしますか。

設問2 B男の両親が法的手段に出てきた時、校長として、どのように解決していきますか。



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

A小学校区には、二つの自治区があり、 校長はどのように連携していけばよいか。

基準5「家庭・地域社会との協働・連携」

A小学校は、B小学校とC小学校の児童数が増え、マンモス校になったため20年ほど前に二つの小学校から分離してできた学校である。そのため、A小学校区には二つの自治公民館が存在している。一つは昔からの地元の人たちが多く住む住宅地で、もう一つは新興住宅地である。

学校では行事への参加のお願いなど公平になるように二つの自治区にお願いをしている。しかし、二つの自治公民館はお互いに学校のためにと張り合っていて困るところがある。D自治公民館は新興住宅地で学校に隣接している関係で、学校の困っている様子がわかりやすく、危険な箇所等を見つけるとすぐに役所に申し入れ、自分たちが危険箇所を直したのだといいだす。E自治公民館は、負けてはおれないとばかりに地元の神社の秋祭りで奉納相撲大会をするので子どもに出て欲しいというお願いを学校に申し入れてきた。学校としては、休日の開催で、保護者同伴で引率の必要もなく、しかも、これを機会に健康や地域の行事に目を向けてくれたらと参加案内をしたところ、D自治公民館から、神社のお祭りという宗教的行事に学校が協力的な態度をとるのはおかしいのではないかというクレームをつけられた。また、D自治公民館は夏休みに、地の利を生かして学校のグラウンドで大々的にラジオ体操を地域ぐるみで行っているが、E自治公民館は、昔ながらの地区ごとに近所づきあいのある親しい人間関係の中で行っている。このように二つの自治公民館はお互いに存在感を学校にアピールするかのようになっている。

学校では、本年度から体験活動の一環として花づくりを行い、校内や学校周辺的环境美化を行うことを計画しているが、農業関係者のいる地元のE自治公民館が主導するかたちになるとD自治公民館から、何らかのクレームがくるのではないかと二つの自治公民館の関係に苦慮している。

校長であるあなたはどのようにしますか？



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

最近、保護者や地域から子どもたちが挨拶をしなくなった、などという評判を多く聞くようになった。校長は連携・協力をどのようにするか。

基準5 「家庭・地域社会との協働・連携」

A小学校は、まちの中心部にあり、校区にはまちの図書館や美術館などがある。また、PTAと地域が一体となった交通指導が行われるなど、生徒指導面でも学習面でも比較的問題の少ない落ち着いた学校であったが、数年前から駅の再開発でマンションが建ち始め児童数の増加がみられるようになって、最近では、子どもたちの登下校の態度や挨拶、公園での遊び方などが悪いと地域の方の苦情も頻繁に入るようになった。校内においても言葉遣いや態度の乱れが目立つようになってきた。

このような状況に担任も担任以外の教職員も落ち着いた校風を守ろうと奮闘していた。そのような折、「読み聞かせ」をさせてほしい。また、不審者の校内侵入も心配なので見回りもさせてほしいという申し入れが保護者からあった。学校としては、子どもの生活態度が乱れ始めていることから、聞く態度が育っていない中での導入は心配ではあるが、何らかの教育的効果があるのではないかと考えていたが、教職員の間からは、学級や学校の様子を見られよくない評判をたてられるのではないかと、安易に受け入れるべきではない。忙しい上に教室を片付けたりなど仕事が増えては困るという声が聞かれた。

また、A小学校では、まちの施設などを生かした教育活動の取組の提案がなされたことがあるが、日々の授業準備や分掌事務に追われ多忙を極めているのに、さらに追い打ちをかけるように時間を使わなくてはいけないなどの煩わしさからうまくいっていない。

校長であるあなたは教職員をどのようにリードしますか？



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

多様性の尊重と倫理規範 基準6「倫理規範とリーダーシップ」

箱田中学校は、都心部にある中規模の公立学校である。学校全体として、生徒間、教員間のモラルの問題があとを絶たない。

4月から新任として赴任してきた音楽の教員K先生は、赴任直後から茶髪で、スカートも短く派手な服装で出勤している。教頭先生より何度となく、校風を乱すために教員であっても品性を正すように指導を受けている。しかし、K先生は、職務規則に触れていない、教頭先生の主観でいけないと言われることがよくわからない、といっこうに茶髪とミニスカートの格好を変えてこない状態である。

9月に入り、1年間米国に留学していたAさんが3年生として復学してきた。Aさんは復学後、髪の毛は茶髪となり、マニキュア、ピアスをして登校してくる。校則により、地毛以外の髪の毛の色は禁止、ピアス、マニキュアも禁止であり、担任のT先生は指導を度々行ってきた。ある日、Aさんの両親が校長室に相談に来た。両親は、学校の近くで外国語教室を開いている。相談の内容は「うちの子が、髪の毛を染めていることを茶髪と、他の生徒さんの前で指導されているみたいで、転校したいと言い出しています。ピアスに関して、今の時代にどうしていけないのですか。アメリカでは、当たり前な姿でした。国際文化に親しむ時代です。特にうちでは、私がハーフであり母の国のアメリカ文化で育ってきて、その中で子どもを育ててきました。ピアスや茶髪をうちの子だけ注意されるのがわかりません。先生方の中でも、若い音楽の先生の茶髪はもっと派手で、スカートも短く自由な服装というではありませんか。子どもたちの自由はないのでしょうか」ということであった。

Aさんの両親が帰宅したその夕方、2年生の生徒たちが廊下に6～7人集まって話していた。たまたま校長はその前を通り、生徒たちが話す内容が聞いた。その内容は、図書室でテスト勉強していたところ、副担任の国語のO先生が、同じクラスの成績のいい生徒たち5～6人に何やらお菓子を渡していたという。どうして、自分のお気に入りの生徒たちだけにお菓子を、それもこっそり配っていたのか、と不平不満を言い合っていた。このことは今回だけのことでなく、以前からクラスで話題になっていることを話していた。

校長は、頭を抱えながら、校長室に戻り、30数年来の止めれないタバコを吸い、一服していた。そこに教頭が入ってきた。「校長、またタバコをお吸いですか。校長室は一室隔離で分煙状態とはいえ、タバコの臭いも嫌な者の身になってください。」と言い出した。校長自身のモラルを問われだされた。

問1：上記の中から考えられる倫理的な問題を明確にして下さい。

問2：校長として、Aさんの両親の相談を踏まえ、どのように校内外に説明責任を果たし、リーダーシップをとりますか

問3：校長として、自己をも含め、教職員間に、教育者としての言動や行為の在りようの省察をするように、どのように取り組んでいきますか



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.

日の丸・君が代を巡る学校現場の混乱にどう対応するのか 基準7「学校をとりまく社会的・文化的要因の理解」

1999年の「国旗・国歌法」施行以降、学校現場では入学式・卒業式で日の丸を掲揚すること、君が代を歌うことへの締め付けが強化された。とある公立中学校であるこの学校でも例外ではない。しかし卒業式を目前に控えて、教員の中には「子どもたちが自分たちの卒業式を自分たちの手でつくるという願いを踏みにじることは許されない。君が代を歌うことを強制させてはならない。」と考える者が君が代斉唱の強制に反対し、卒業生である3年生の担任間でも意見が対立している。次のような騒動が起こっていることをA教頭からあなたは報告を受けた。

3年1組の担任であるB教諭は「君が代の歌詞の意味についてしっかり教えれば、子どもたちも『卒業式は私たちのものなので君が代は歌いたくない』と考えるはずだ。もし、しっかりとした自分の意思をもって君が代を歌うという子どもがいればそれはそれでよい。権力は君が代を強制することで『考えぬ子ども』『もの言わぬ子ども』を育てようとしているのか。君が代斉唱を強制することの不合理があってはならない。日本国憲法にも定められている『思想・良心の自由』に反するではないか。私自身も君が代は歌わないつもりだ。」と言った。

それに対して3年2組の担任であるC教諭は「卒業式は学校の儀式なのだから、学校の方針に従う義務がある。個人のわがままは許されない。それにA先生は子どもたちに公平な視点から君が代について教えることができるのか。あなたにそれができるとは思えない。それこそ思想の強制になってしまう。そして我々公立学校の教員は組織の一員であり、職務命令に従うのは当たり前だ。嫌ならば公務員を辞めるか、民主的方法でルールを変えればいい。卒業式という子どもたちの晴れ舞台で個人の思想良心を盾に教員が君が代を歌わないということが許されるのか。その自由があるのは公務員以外の国民だ」と返した。

このような問題に対応するために、あなたは学校をとりまく社会的要因、ここでは日本国憲法、教育基本法、国旗・国家法といういずれも日本の公教育システムに関わってくる関係法令等をしっかり把握しながら、どのように双方に声掛けて意見を聞き、子どもたちのため、学校のためになる働きかけをしますか？



KYUSHU UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 MOTOKANE LABORATORY All Rights Reserved.